

# ビジョン発信プロジェクト 2020

Vol.4

2020年10月発行

～活動の軌跡、メンバーの想い～

神戸大学ビジョン発信プロジェクトは、2019年1月から、ブランディング戦略の強化、外部資金獲得のための戦略的情報発信及び教職員の協働意識や求心力の向上を含む学内における機能強化実行の後押しを目的として、有志の若手職員を中心としたメンバーで活動しています。

ついに、「[統合報告書2020](#)」が完成しました！ご協力いただいた学内外の関係者のみなさま本当にありがとうございました。ホームページにPDF版を掲載しておりますので、ぜひご覧ください！

1ページ1ページ心を込めて作成しましたので、一言一句読んでいただきたいところですが、全てのページを読む時間が無い方もいらっしゃると思います。そこで、今回発行するvol.4では、厳選した一部のページを紹介したいと思います！各ページの作成を担当したメンバーの感想とともに、ぜひご覧ください♪

## 統合報告書2020完成！！

順次各部署に冊子を配布しておりますので、ぜひ手に取ってお読みください♪  
ご意見・ご感想も受け付けております！ホームページのアンケートよりご回答ください。



(表)



表紙は、昨年と同じく「KOBE」の文字で構成することで継続性を感じさせつつ、今年の報告書ならではの「ダイバーシティ（多様性）」を意識したカラフルなデザインになっています♪

(裏)



統合報告書2019



Feature 特集 1

### 神戸大学と新型コロナウイルス

**感染症予防対策の**  
有用性を明らかに

一部の新型コロナウイルス感染者は回復を遂げないことが知られており、このような重症化のリスクとして、多くの人々を悩ませる原因となる可能性があると考えられています。

森下教授（神戸大学大学院医学研究科）は、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、新型コロナウイルス感染症の感染を抑制する効果を確認しました。また、新型コロナウイルス感染症の感染を抑制する効果を確認しました。また、新型コロナウイルス感染症の感染を抑制する効果を確認しました。



森下 浩一 氏です。大学教育研究奨励賞（感染症センター賞）、ライフサイエンス賞を受賞しています。2020年 JST ERATO Award 受賞者。

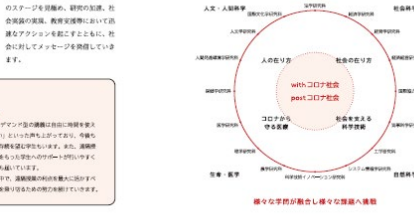
また、PCR検査の普及と検査体制の充実により、感染拡大の抑制が期待されています。この調査結果に基づいて、感染者の隔離や治療の開始時期を決定することが、新型コロナウイルスへの感染を抑制する上で重要な役割を果たしていると考えられます。今回の調査結果に基づいて、新型コロナウイルスに対する予防対策の重要性が再認識されました。

**高度医療の取り組み**

高度医療の取り組みとして、神戸大学は「神戸大学グループ」のメンバーとして、高度医療の取り組みを行っています。また、高度医療の取り組みを行っています。また、高度医療の取り組みを行っています。

**感染対策に関する研究・実証**

神戸大学は感染症の発生を抑制する効果を確認しました。また、新型コロナウイルス感染症の感染を抑制する効果を確認しました。また、新型コロナウイルス感染症の感染を抑制する効果を確認しました。



統合報告書 2020 では、2つの特集記事を掲載しています。そのうちの1つが新型コロナウイルスへの対応に関する特集です。兵庫県下で医療従事者の抗体検査を実施している森康子教授（医学研究科附属感染症センター）の研究活動を中心に、神戸大学における新型コロナウイルスへの対応について複数のトピックで紹介しています。これから訪れる「With/postコロナ」の時代において、大学が社会に対してどのような役割を果たしていくべきなのかを考える一つのきっかけになれば幸いです。

### ●ひとこと編集後記

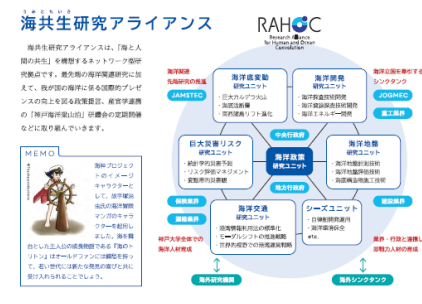
報告書の作成で一番苦労したことは記事の構成です（最初の構成案はデザイン業者から痛烈なダメ出しが入り、最終的に7次案まで作るようになりました）。自分のセンスの無さに落ち込んだりしながらも、普段の業務では得難い貴重な経験が出来たと思います。

富田

2つ目の特集では、「海神プロジェクト」を取り上げています。このページでは「海神プロジェクト」の3つの主要なプロジェクトである「海共生（うみともいき）研究アライアンス」「海洋政策科学部」「新練習船建造」に関する記事と、海共生研究アライアンス長である巽先生へのインタビュー記事を掲載しています。「海の神戸大学」としての様々な取り組みについて、ぜひご一読ください。



「海神プロジェクト」は、神戸大学が「海の神戸大学」として、研究・教育を推進することを多くの方々に知っていただくために、日々取り組まれている取り組みの一つです。



**海洋政策科学部**  
海を知り、地球「まるごと」考える。

海洋政策科学部は、海洋研究や海洋政策の発展・発展を促すとともに、海洋が持つさまざまな価値を認識し、国際社会をリードするグローバルリーダーとエキスパートの養成を目標としています。

- 2 類型入学者選抜  
選抜は、選考・交流が中心です。
- 海の専門教育  
海洋に関する専門知識、多岐にわたる。
- 海洋リテラシー教育  
海洋に関する基礎知識、教養として。
- 海のアクティブラーニング  
経験豊富な教員や学生が主体的に学ぶ。
- 海の BDL (Beyond Disciplinary Learning)  
海洋の枠を超えて、課題解決に取り組む。
- 海のインターンシップ  
社会経験を積む。海化学部。

**先進的な機能を備えた新練習船建造**

高度な人材育成と教育活動を推進するために、最新の機能を備えた新練習船の建造が進んでいます。「海洋政策科学部」は、海洋研究や海洋政策の発展・発展を促すとともに、海洋が持つさまざまな価値を認識し、国際社会をリードするグローバルリーダーとエキスパートの養成を目標としています。

「One Globe」の実現に向けて

海洋政策科学部は、海洋研究や海洋政策の発展・発展を促すとともに、海洋が持つさまざまな価値を認識し、国際社会をリードするグローバルリーダーとエキスパートの養成を目標としています。

### ●ひとこと編集後記

報告書班としての活動が始まってからは毎日が一瞬で、1日20時間くらい働きたい！と思っていました。動き回ってくれたメンバーには感謝しかなく、全員の力で一番いいものができたと思います。報告書を読んだ皆様に「神戸大学って素敵！」とだけ思っていたら嬉しいです。

河西

洗練されたグローバル教育

充実した様子・生活レポートの中での学び



留学生 HINDLE, Jessica Anne

神戸大学の1年間はとてもチャレンジングで、自分自身が成長したことを感じています。私は、オックスフォード大学で日本語を1年間履修し、途中から神戸オックスフォード日本語プログラム (OSOP) で日本語と文学部の専門科目を履修しています。私の日本語の成長は、『Kawaii!』という授業です。履修科目ごとの授業が充実していましたが、日本でもよく分かって、国際的な文化の知識を身に付け、大学では英語を学ぶことになりました。留学を通じての神戸大学の魅力は、神戸大学のチューターによるサポートがとても心当たります。また、グローバルなアクティビティに参加し、成長は、OSOP

以外の学生や交換留学生と親交を築いた点、広島県立広島資料館の訪問は非常に印象に残っています。幅広い1課間のコースを履修した日本の家庭との違いは、定かでないが素晴らしいと思います。1年間の留学生活では、日本の学習や働き方に関する知識や生活習慣の多岐にわたる知識を身に付け、自分自身も成長することができました。また、外国文化への理解や外国で生活することになったときの不安を乗り越え、自分自身にとってよくない状況でも立ち回ることができました。

日本やアジアの伝統や文化を知ることが、帰国後は、日本だけでなく、専門分野として活躍の機会も増えるのではないかと感じています。

「専門性」と「アウトプットする力」の習得



岡本 達樹

私はグローバル人材として、海外の考え方や文化、そしてその背景を理解し、日本としてのアプローチや専門性を高めたいと考えています。日本と海外の文化の違いは、定かでないが素晴らしいと思います。1年間の留学生活では、日本の学習や働き方に関する知識や生活習慣の多岐にわたる知識を身に付け、自分自身も成長することができました。また、外国文化への理解や外国で生活することになったときの不安を乗り越え、自分自身にとってよくない状況でも立ち回ることができました。

知識の幅しきや視野の広さを専門知識の習得を通して、大学院での論文執筆に関する研究のモチベーションになりました。また、パリのサロンのワークショップに参加し、海外に滞在するベルギー人の心をつかむことができました。日本としての自身の成長を客観的に振り返ることができました。

神戸大学では、海外の考え方や文化、そしてその背景を理解し、日本としてのアプローチや専門性を高めたいと考えています。日本と海外の文化の違いは、定かでないが素晴らしいと思います。1年間の留学生活では、日本の学習や働き方に関する知識や生活習慣の多岐にわたる知識を身に付け、自分自身も成長することができました。また、外国文化への理解や外国で生活することになったときの不安を乗り越え、自分自身にとってよくない状況でも立ち回ることができました。

神戸大学で、地元の文化や生活を知り、国際的な人間関係を築くことができたことは、海外留学で学ぶ機会がなかったら、学生の海外経験が実現しなかったかもしれません。また、多岐の知識を受け

取ることが、神戸大学に、これまでで一番有意義な経験になりました。神戸大学で、地元の文化や生活を知り、国際的な人間関係を築くことができたことは、海外留学で学ぶ機会がなかったら、学生の海外経験が実現しなかったかもしれません。また、多岐の知識を受け

取ることが、神戸大学に、これまでで一番有意義な経験になりました。神戸大学で、地元の文化や生活を知り、国際的な人間関係を築くことができたことは、海外留学で学ぶ機会がなかったら、学生の海外経験が実現しなかったかもしれません。また、多岐の知識を受け

学生が成長していく姿、気になりませんか？今年の統合報告書では、神戸大学の教育の中でも「グローバル」に焦点をあて、留学生と卒業生にインタビューを行いました。神戸大学で得た経験、留学を通して得た経験が学生の成長を促し、彼らの未来に繋がっていていることが、僅か数百字の記事の中に凝縮されています。ぜひ、神戸大学での経験を通して成長していった彼らの姿を想像しながらお読みください。

●ひとこと編集後記  
数百字で伝えたい想いを表現することはとても難しく、また、文字にすることへの責任を感じました。しかし、新しい出会い等1つの記事を書くまでの過程は何とも言えない楽しさがありました。「書くこと」は難しい、でも楽しい。統合報告書の作成で大きな発見ができました。

澁谷



P.36-41 対談 神戸市長×学長

神戸市長との対談が実現したのは、昨年開催したシンポジウムに興味をお持ちいただき、ご来場・ご挨拶いただいたことがきっかけでした。今年度の統合報告書のテーマの1つである「地域に根ざす」にも関連して、神戸市に根ざす大学の視点で対談する予定でしたが、このご時世ですので、新型コロナウイルスについて多く語られています。対談は神戸市役所の応接室で行いました。

●ひとこと編集後記  
対談日が決まったと思ったら急遽日程が早まり、大変なこともありましたが、無事に記事が完成し、安堵しています。普段の仕事では知り合えないメンバーと活動でき、違う角度で大学を見ることができました。このプロジェクトでなければ経験できないことばかりでした。

齋藤



ご意見・ご感想等ございましたらお気軽にこちらまでご連絡ください

問い合わせ先：神戸大学財務部財務戦略課  
(神戸大学ビジョン発信プロジェクト・説明会班)  
E-mail : fn-ssp@office.kobe-u.ac.jp  
TEL : 078-803-5105